序

武田学千

平成四年三月十三日、母武田ミキは主治医の桑原正彦先生に肺炎と診断され、ただちに安佐市民病院に入院いたしました。九十歳という高齢でもあり大変心配しましたが、病院長先生を初め多くの方々の手厚い看護のお蔭で、半年後の九月十八日に無事退院することが出来ました。その後、学園内の住居で多くの方々に見守られ養生に努めてきましたが、平成五年十二月二十七日午前七時、主治医の先生に看取られながら、九十二歳の生涯を終えました。

母は入院中の五月頃よりリハビリを兼ねて、毎日日記を書くことに努めておりました。その中の一つを紹介します。

平成四年六月二十四日

こうして毎日書くことによって、頭の、手のリハビリになるということで書いているが、少しでもその目的に近づけばありがたいです。いや、近づけるべく努力せねばなりません。人間は皆努力が大切です。必要です。努力、努力、努力には花が咲き、実を結ぶ。私も努力の一点張りで今日まで教育一筋の道をあゆんできました。かえりみれば、これほど楽しい嬉しいことはありません。楽しい嬉しい人生を送ることは大切なことです。

母は〝教育に生き、教育に死する〟の気概を終生持ち続けた人でありました。それは、入院の前々日まで、朝の七時三十分から夜の十時頃まで、日曜日は勿論、お盆も正月も一日たりとも休むことなく、理事長室に出向いて、ひたすら校務に打ち込んでいたことに表れています。その生涯のすべてを教育の道に捧げた母の思いが、学園の将来に渉って受け継がれていくことを願って止みません。